

2024 年度 はつしば学園幼稚園 学校評価

1. 本園の教育目標

学園の理念である「夢と高い志、挑戦、そして未来創造」に基づき、“遊び・発見・学びの根っこを育てよう”に取り組めます。

教育方針

- ・日常生活の正しい習慣を身につける。
- ・身近な集団生活に適応できる規律と勇気を持たせる。
- ・まわりの自然や社会に関心を持たせる。
- ・思った事を素直に話し、人の話をよく聞きわかるようにする。
- ・自由な表現活動を重視し創造性を豊かにする。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・正課授業の安定化を図ると共に、課外教室を幅広く周知し、多様な経験を通して『学びの根っこ』を育てていきます。
- ・「しつけの三ヶ条」
 - “朝のあいさつが出来るように”
 - “名前を呼ばれたら「ハイ」と返事のできるように”
 - “履物を自分できっちりそろえるように”
- ・立腰や茶道を通して日常生活の基本的な日常習慣の育成に役立てます。
- ・茶道は裏千家淡交会より講師を招いての指導とさかい利品の杜で茶の湯体験を通して、子ども達自身が自分で心と体を整える力をつけさせます。
- ・国際コースでは、英語を母国語のように聞き取り、理解できる力を育むことを目的に、GrapeSEED や Little SEED といった専用教材を使用しています。ネイティブ講師のもとで楽しく学びながら、英語の言語能力を段階的に養っていきます。また、国際交流プログラムを通じて、世界中の子どもたちと交流する機会を設け、英語を実際に使うアウトプットの場を提供していきます。
- ・満3歳児クラスでは、保護者のニーズに応える教育を実施していきます。
- ・スクールカウンセリングを実施し、保護者に子育ての悩みを相談する場を提供し、幼稚園と家庭で園児をサポートする体制を構築します。
- ・はつしば学園小学校との連携をさらに強化し、小学校の先生による知育教室、交流会等、具体的な取り組みを更に進めていきます。
- ・総合学園のメリットを活かした交流により本園でしか体験できない本物の教育を提供していきます。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
幼稚園行事は、楽しく充実している。	・園行事が元通りになり多くの保護者が喜び、幼稚園理解が深まった。 ・わくわくデー・運動会・発表会と学期ごとの大きな行事では、子どもの成長が見られ、各学年の発達段階を知る機会となった。 ・学園内交流では初芝立命館中学高等学校吹奏楽部による演奏会やダンス部との交流会など、本物に触れることでよい経験・体験ができた。 ・異年齢交流保育（はつしばフェスティバル）を行い幼稚園生活の中で年下の園児は年長児への憧れを持ちながら、協調性や自主性を培うことができている。
スイミングプール・GrapeSEED・体育指導・イングリッシュタイム・リトミック・茶道・朗読など保育カリキュラムに満足している。	・保育内容では、本園でしかなかなか体験できないことが取り入れられており、様々な分野に興味を持つきっかけとなっている。 ・スイミングが通年あることで良い教育効果をもたらしている。 ・国際コースのカリキュラムでは、ネイティブ講師とともに、先生や友だちとさまざまなアクティビティを通して楽しくレッスンを受ける中で、「話せる英語」が身についてきている。 また、オンラインでの国際交流を通じて、英語を学ぶだけでなく、さまざまな国の文化に触れることで、多様性を受け入れる心も育まれている。 ・利晶の杜での茶の湯体験では、堺の特色ある歴史文化などに触れることができている。
配布文書やホームページ・コミュなび（アプリ）掲載、学級通信により園生活の様子がわかる	・配布文書（園だよりなど）をホームページ“保護者サイト”とコミュなび“ぎゅっとなび”に掲載することで資源ごみの削減（ペーパーレス化）の観点から評価されている。 ・ホームページの「はつしばっこだより」やインスタグラムでは、定期的に投稿を行うことで閲覧回数が増加している。保護者の方々からは、「幼稚園の様子がよく分かり嬉しい」と喜ばれている。今後も、個人情報の取り扱いには十分

	注意しながら、引き続き情報発信を行っていく。
スクールバスの運行は正確かつ安全に行われている	・バスナビ（アプリ）導入で到着前のメール配信により待ち時間の短縮ができるようになった。 ・置き去り防止装置を設置しバスを利用する園児の安全を確保する。
課外教室が充実している	・年少・中・長園児参加の課外教室の内容が充実しており、多くの園児が喜んで通っている。 ・満三歳児クラスはリトミック教室のみで、他の教室も利用できるよう検討していく。
なかよしホームは、保護者のニーズにこたえ、子育て支援の一環として利用しやすい内容となっている。	・長期休暇及び午前保育中の昼食については、お弁当と給食の選択制が導入され保護者のニーズに沿うことが出来ている。 ・就労家庭の増加、満三歳児も利用できることにより利用者が増え月極め利用児も年々増えてきている。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

具体的な目標や計画に対して、教職員全体で共通理解し、自己評価し、取組み状況を通じて各人の課題を具体的に確認することができた。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
保育の質の向上	・子どもたちが主体となって園生活が送れるよう引き続き取り組んでいく。 ・正課授業のさらなる充実。 ・GrapeSEED やネイティブ講師によるイングリッシュタイム・テーブルトークが導入され充実した内容であった。英語のアウトプットの場として世界の子ども達と交流する機会を更に増やし英語教育に取り組んでいく。 ・職員・学年会議では、保育を見直す保育カンファレンスを行い保育の改善に努め、研修にも積極的に参加し保育の発展と専門性の向上を目指す。 ・子育て相談員・ソーシャルワーク・幼児教育アドバイザーの育成など、幼児教育

	の専門性を高め、保護者の悩みやサポートに繋げていく。 ・満三歳児クラスでは、子どもの実態を踏まえカリキュラム内容を検討していく。
ホームページやコミュなびアプリ、インスタグラムの活用	・ホームページのリニューアルを行い、見やすく、情報などタイムリーに更新し発信していく等、本園のアピールの強化に努める。 ・未就園児対象イベントなどをホームページやインスタグラムを通じて周知し園児募集につなげていく。 ・コミュなび（アプリ）では、出欠確認・スクールバス運行・預かり保育の申込みの他、園児情報・保護者情報なども活用し管理していくようにする。
預かり保育の充実	・就労家庭が年々増加し、預かり保育の利用者が更に多くなってきた。教職員の配置や保育室の確保が難しい現状の中、就労家庭の保護者にとっては開所日増加の要望も出ている。園児の安全管理を第一に考えた運営対策が急務である。

6. 学校関係者の評価

・子どもたちに多くの成功体験をさせて様々な事に挑戦する強い心を育てられるよう、伝統を継承しつつ、新しい保育にも向上心をもって取り組んでいる。 ・保育の質の向上への期待と幼児期の教育に対する保護者の関心が高まっているので、園の特色を活かし、更なる保育の質の向上を望んでいる。 ・いろいろな行事を通して子どもたちの主体性や創造性、協調性の育ちや家庭では見られない姿を見られて良かった。 ・預かり保育では、円滑に利用できるよう工夫を重ねていき安全で安心な子育て支援となるように望んでいる。またおやつについては、市販のおやつだけでなく無添加のものなども取り入れてほしい。 ・給食については子どもたちが喜んで食べられるメニューを検討してほしい。
